



協力：ホビージャパン



地球連邦軍
先行量産型モビルスーツ
RX-79(G)「陸戦型ガンダム」
1/100スケール マスターグレードモデル

GUNDAM RX-79(G)
E.F.S.F. FIRST PRODUCTION MOBILE SUIT



MOBILE SUIT
RX-79(G)

GUNDAM

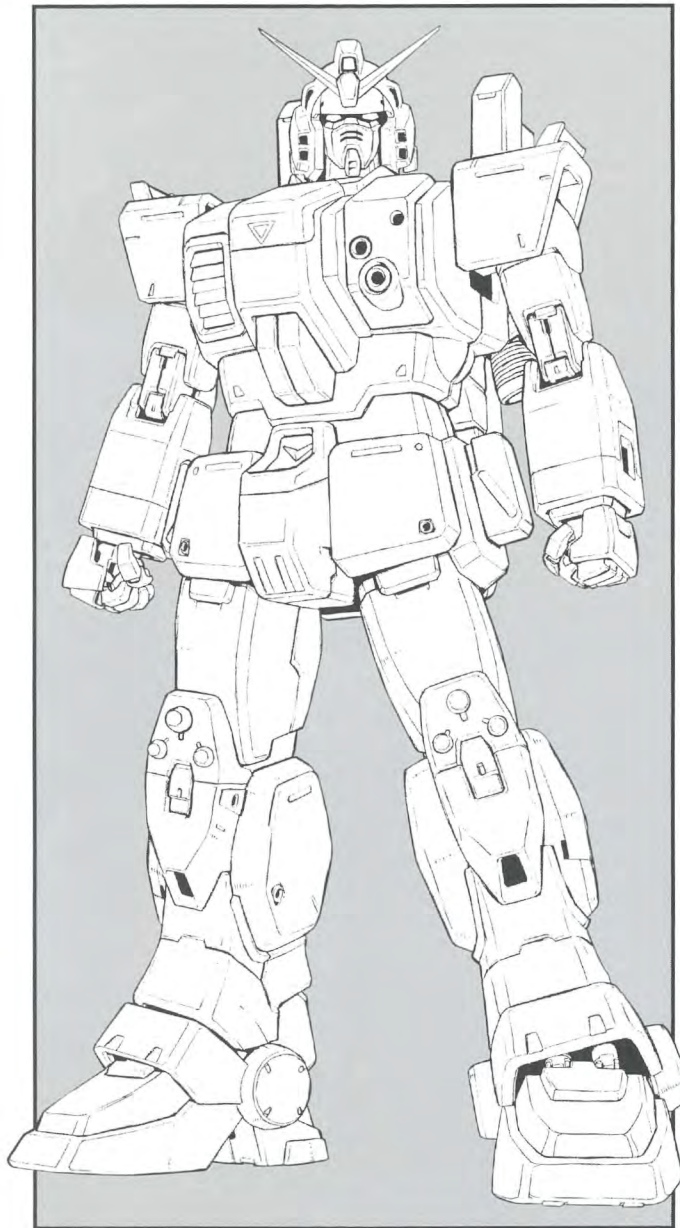
E.F.S.F. FIRST PRODUCTION
MOBILE SUIT



地球連邦軍
先行量産型モビルスーツ
RX-79(G)「陸戦型ガンダム」
1/100スケール マスターグレードモデル

BANDAI 2000 MADE IN JAPAN





RX-79(G) GUNDAM

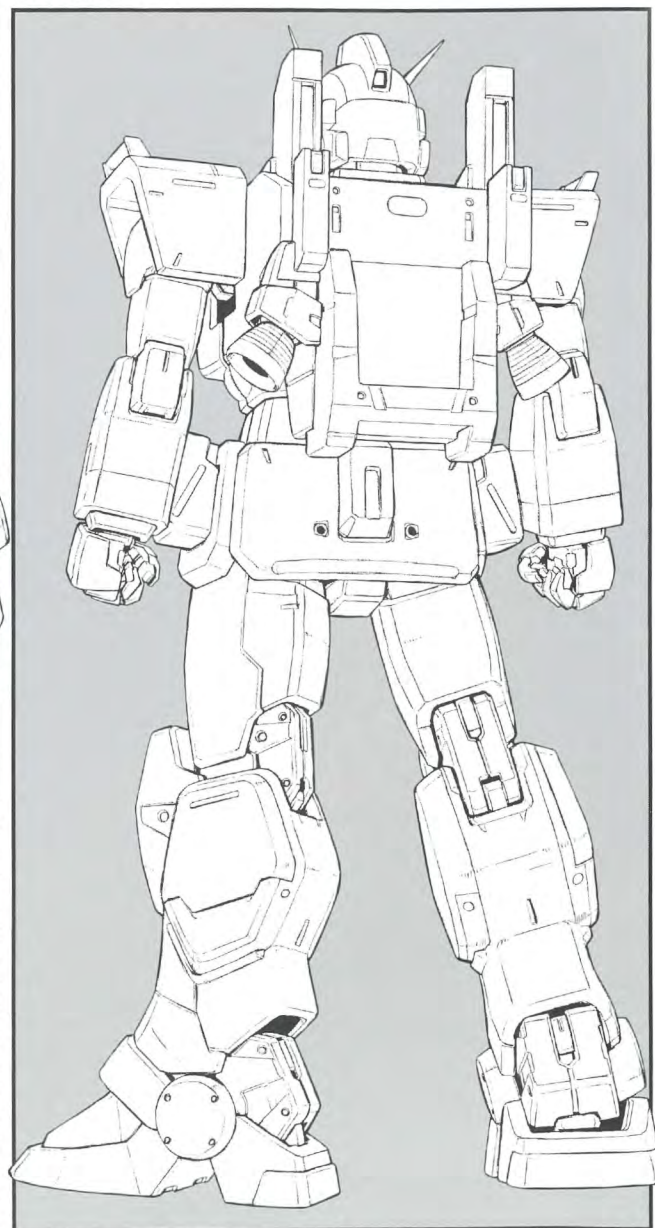
一年戦争勃発以前、連邦軍上層部はジオン公国が軍事的な対決を望んでいるとは考えていなかった。しかし、公国軍が新兵器を開発しているという情報を入手していた一部の軍首脳は、その対抗措置として、新兵器の開発及び諜報活動を含む複数のプロジェクトを立案した。それが「RX計画」である。この計画は、U.C.0076年以降、散発的に報告されていた公国軍による「巨大な人型の機動兵器」に対抗すべく、あらゆる方策を講じることを目的としていた。そして、個人や各コロニーの駐留軍などが入手した目撃談や状況証拠などをもとに、歩行脚やマニピュレーターなどを持つとされるその兵器の実在を前提としたシミュレーションを行い、同等程度、あるいはそれ以上の能力を持つ兵器開発、または対抗措置を検討するための基礎研究が推進されることとなったのである。実際には、RX計画が具体化する以前より、公国から亡命してきた技術者がもたらした情報に基づいて各種の計画が立案されていたとも言われているが、詳細は不明である。ともあれ、そういった事情のكامフラージュも含め、この計画には既存の軍需産業も参画することとなり、数年前より継続していた兵器の開発計画もいくつかが繰り込まれたものの、統括すべき連邦軍の方針が定まらず、戦略的にも戦術的にも確固とした

指針のないまま、散漫とさえ言えるような素案が山積していた。

一年戦争勃発によって趨勢が決した後、RX計画に連なるプロジェクトを統合する形で、本格的な高性能機と、その母艦との開発を並行して行う「V作戦」が立案、実行された。当初ジムの量産計画はRX-78並のスペックを目標とするものだったが、戦況を鑑みて決定された調達機数の大幅増により、一機当たりのコストを極力絞った量産計画に変更された。それに基づき、いわばコストダウンされた機体がRGM-79ジムなのである。

RX-79(G)いわゆる“陸戦型ガンダム”は、MS量産計画最初期において先行試作された内の一機である。この機体は、前年度から最強のMSを目指して開発が進められていたRX-78の実働データ回収以前に試験的に量産されたため、ある程度限定された環境でしか稼働できないRGM-79(G=GrounDtype)GMをベースとしているものの、多様なオプションによりあらゆる戦闘に対応できるように設計されている。ことにG型は、当初から空間戦闘用の装備をオミットした設計が施されているため、機体は軽量化され、装甲材なども本格的な量産計画以前の材料が使用されており、少なくとも“重力下”におけるスペックはRX-78に匹敵すると言われるほど高性能な機体となっている。

連邦軍の地上部隊においてオデッサ作戦以前にMS部隊が配属されたのは、公国軍による地球降下作戦によって侵食された地域の周辺領域が多く、特に各種資源鉱床や工業設備、または支配地域の拡大が懸念される戦線などへ優先的に投入されている。

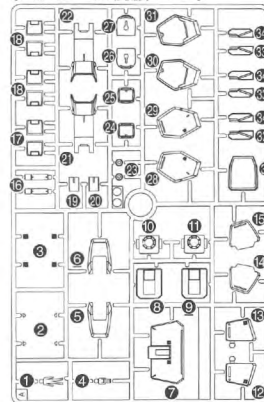


Conceptual illustration : Hajime-Katoki

パーツリスト

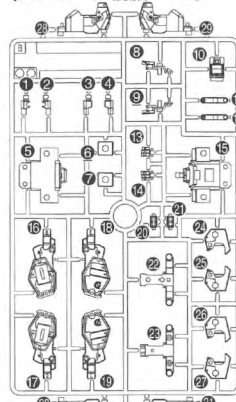
Aパーツ

(スチロール樹脂：PS)



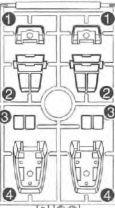
Bパーツ

(スチロール樹脂：PS)



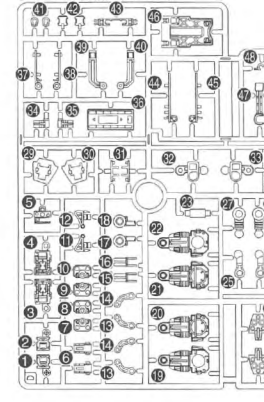
Cパーツ

(スチロール樹脂：PS)



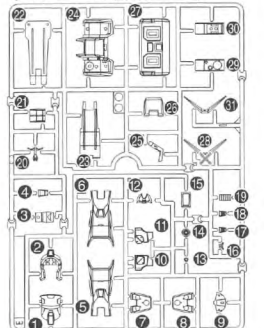
Dパーツ

(ABS樹脂：ABS)



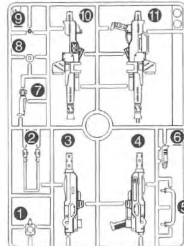
Eパーツ

(スチロール樹脂：PS)



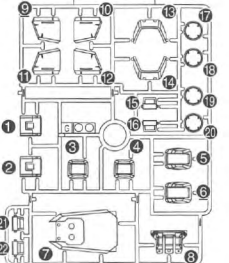
Fパーツ

(スチロール樹脂：PS)



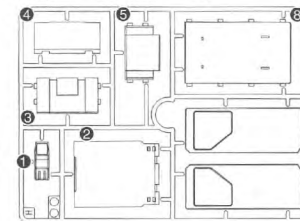
Gパーツ

(スチロール樹脂：PS)



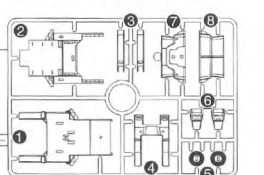
Hパーツ

(スチロール樹脂：PS)



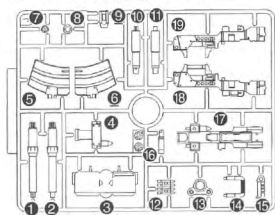
Iパーツ

(スチロール樹脂：PS)



Jパーツ

(スチロール樹脂：PS)



Kパーツ

(スチロール樹脂：PS)



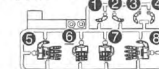
サーベル1パーツ (SB1パーツ)

(スチロール樹脂：PS)



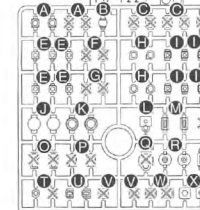
マニピュレーター1パーツ (MP1パーツ)

(スチロール樹脂：PS)



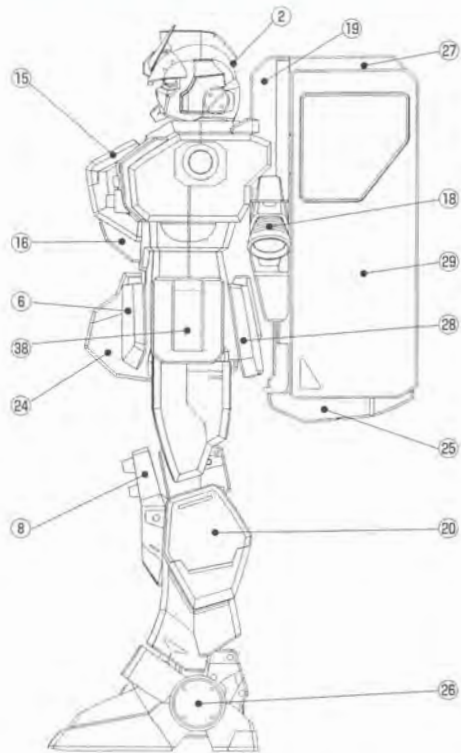
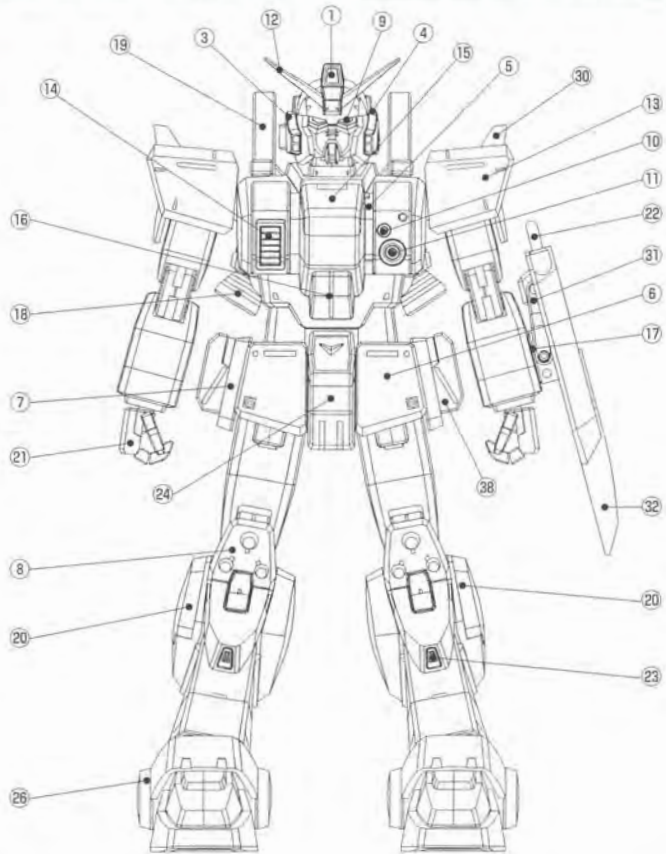
PC-122

(ポリエチレン：PE)



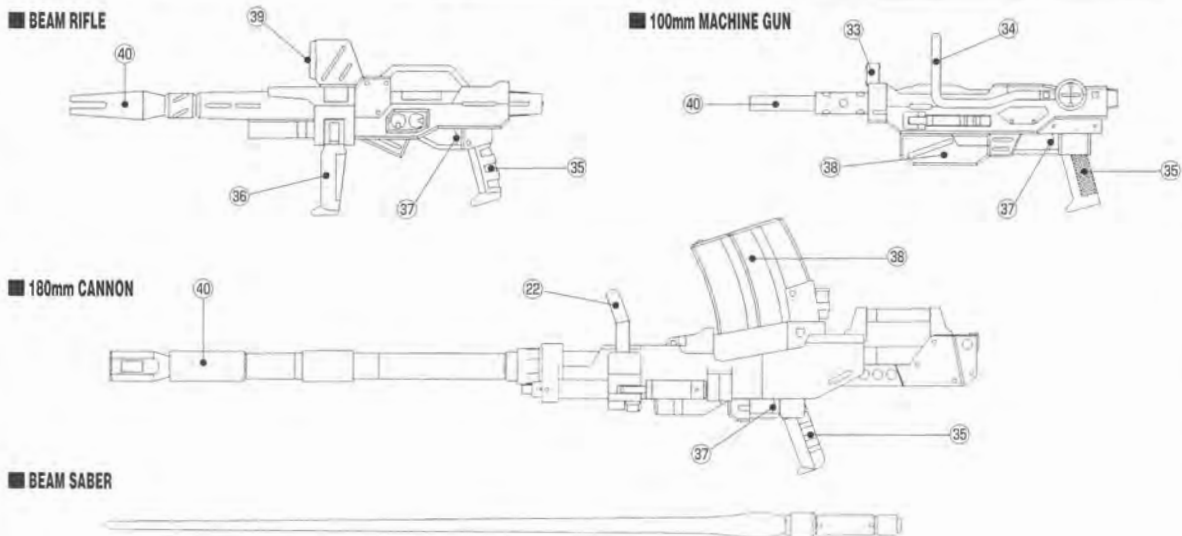
- カラーシール……………1
- マーキングシール…1
- ガンダムデカール…1
- ビス……………2
- ナット……………2
- ビス座付……………2

RX-79[G] GUNDAM



- | | | | | |
|-----------------|--------------|-------------|---------------|---------------|
| ①メインカメラ | ⑨デュアルセンサー | ⑰マウントラッチ | ⑳フォークリフト | ㉓サイトスコープ |
| ②リアカメラ/センサー | ⑩胸部60mmバルカン | ⑱メインスラスタ | ㉔アングルサポートユニット | ㉔フォールディングストック |
| ③サブセンサー | ⑪胸部マルチランチャー | ⑲ライト | ㉕ホールドアーム | ㉕グリップ |
| ④シュノーケルカメラ | ⑫マルチブレードアンテナ | ⑳サーベルラック | ㉖リアアーマー | ㉖フォアグリッ |
| ⑤クレーンアーム | ⑬ショルダーアーマー | ㉑マニピュレーター | ㉗コンテナ | ㉗トリガー |
| ⑥フロントアーマー | ⑭ダクト/インテーク | ㉒キャリングハンドル | ㉘スリングバー | ㉘マガジン |
| ⑦サイドアーマー | ⑮コクピットハッチ | ㉓グランドセンサー | ㉙ジョイント/ヒポット | ㉙ナロウセンサー |
| ⑧二ジョイントスパイクアーマー | ⑯メンテナンスハッチ | ㉔ベンチレートボックス | ㉚シールドフェレール | ㉚マズル |

注) いわゆる陸戦型ガンダムは、U.C.0079年10月時点で20数機が完成していた。この機体は、東南アジア方面軍機械化混成大隊（ゴジマ大隊）所属の12機の内、第08小隊に配備されたものである。



注意

必ずお読みください

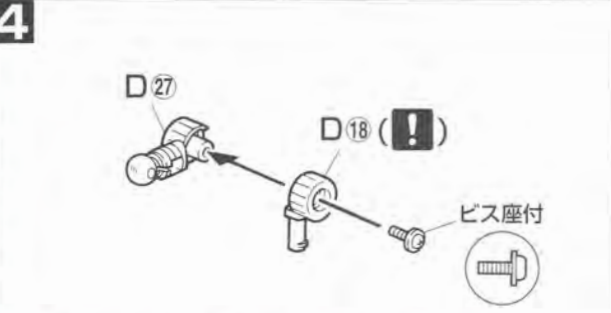
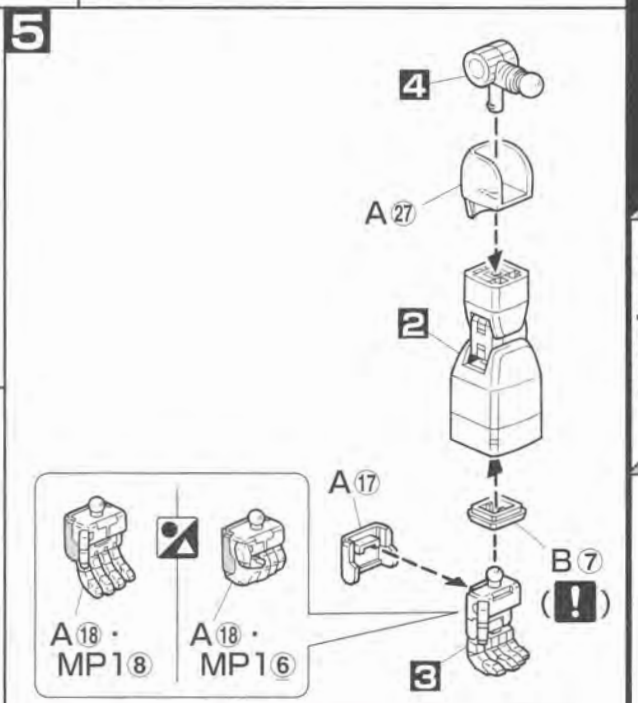
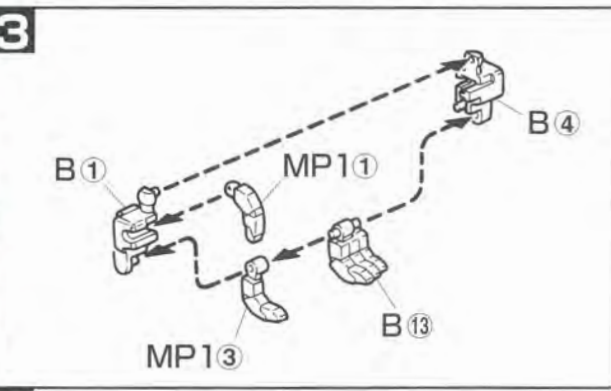
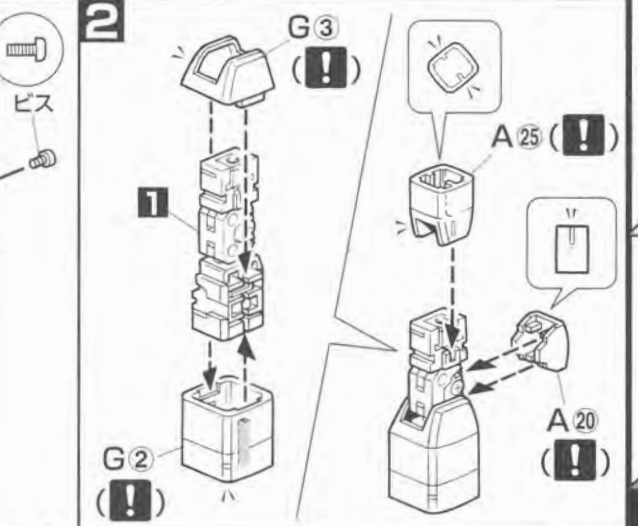
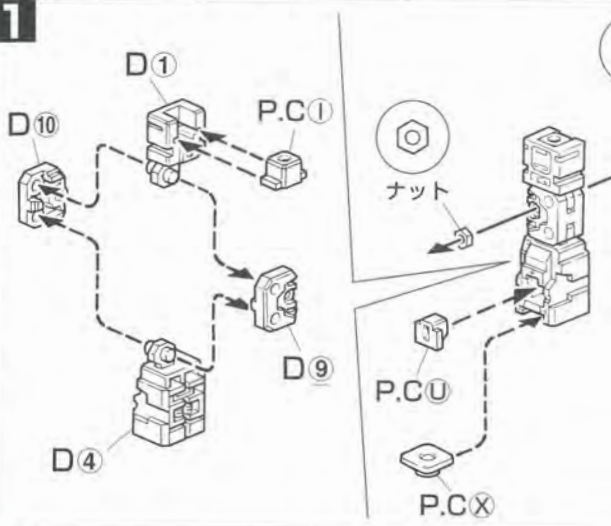
- この商品の対象年齢は15歳以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15歳未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- 小さなお子様がいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 接着剤は、閉め切った室内では使用しないでください。中毒になる危険があります。

このキットには接着剤が入っておりません。ディテールアップパーツを接着する場合にはプラスチックモデル専用接着剤を別にお買い求め下さい。
※このキットの組み立てには+（プラス）ドライバーをしますので別にご用意ください。

〈組み立てる時の注意〉

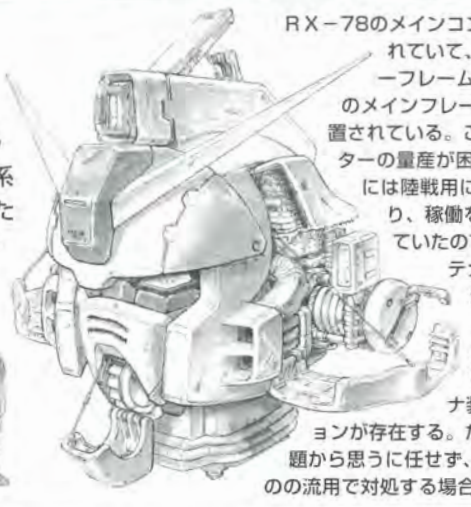
- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがったところがあるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- ビスの締めすぎには注意しましょう。

・接着をするところの線	・シールの番号	・デカールの番号	・反対側に取り付けるパーツ	・両側に同じパーツを取り付ける	・向きに注意して取り付ける
・切り取る線	・部品を数値の個数作ります	・先に組み立てます	・後に組み立てます	・数値に合わせて回転させます	・どちらかを選んで取り付ける



HEAD UNIT

RX-79(G)の頭部は、頭頂部のメインカメラ部と一対のデュアルカメラを基本構成とするガンダム系MSの特徴を持つ。実際、流用されたパーツも多いが、内装デバイスの多くは新規に設計されている。



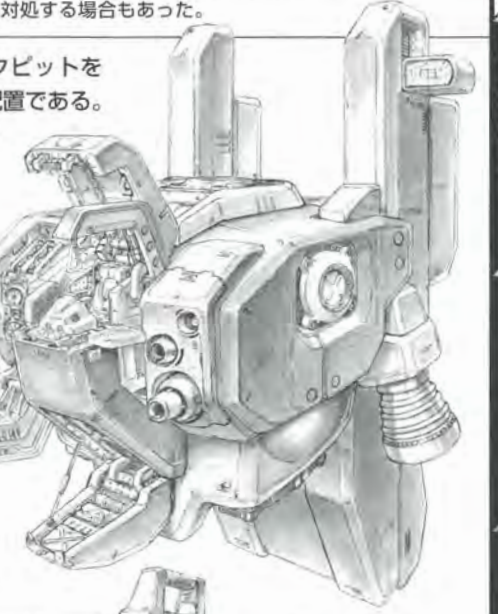
RX-78のメインコンピューターはコア・ファイターに搭載されていて、頭部ユニットは副次的なコア・プロセッサフレームとして機能していたが、RX-79(G)のメインフレームは、頭部及びコクピット周辺に分散配置されている。これは、フルスペックの教育型コンピューターの量産が困難であったという事情にもよるが、実際には陸戦用に限定特化された機体には過剰な品質であり、稼働を安定させるためのデチューンさえ施されていたのである。それでもスズ社製無段方位アンテナや、マツム・ソニック社製の通信、音響システムなど、78系の純正品も採用されていて、前線の要請に応える形で通信能力や近接戦闘能力の強化なども計られている。頭部形状自体も、標準型、アンテナ装備型、バルカン装備型などのバリエーションが存在する。ただし、部品の交換や更新は補給などの問題から思うに任せず、戦闘による損耗などには、RGM系のもの流用で対処する場合もあった。

COCKPIT

RX-79(G)に特徴的なのは、コクピットをはじめとする制御系と主動力炉の構造や配置である。

これは運用される戦術の根本的な差異によるもので、それはバックパックの機能や構造などにも現れている。

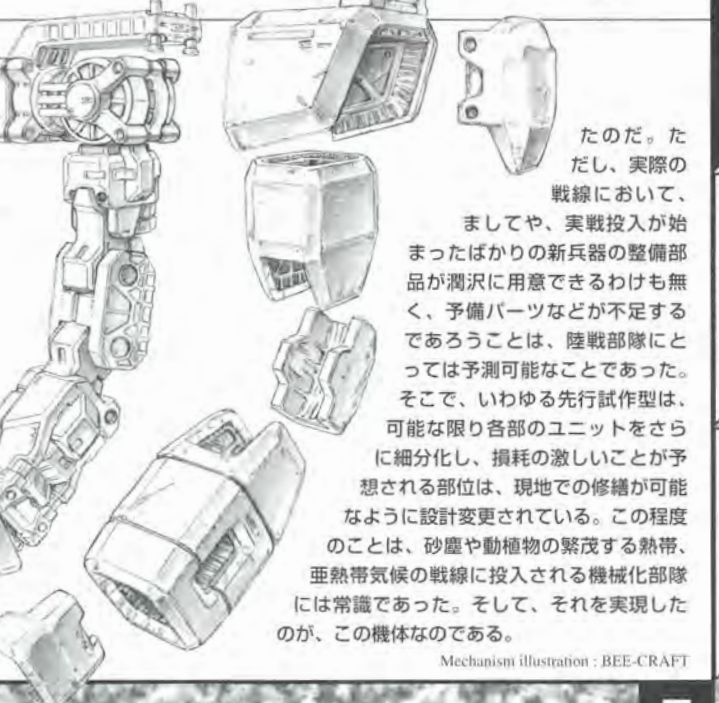
RX-79(G)ガンダムは、いわゆる78ガンダムの量産化を指標としてはいたが、その構造には大幅な変更が施されている。コア・ブロック・システムのおミットは元より、コクピットやメインジェネレーターのスペック、配置の変更やマルチランチャーといった武装の追加など枚挙にいとまがない。これは主に生産性の問題というよりも、重力下での運用という前提と、投入領域の優先順位から導き出されたシミュレーションに基づくものであった。パイロットが機体に昇降する際の補助設備や、大がかりな施設を必要としない整備ノウハウの確立など、基本的に宇宙空間での運用を前提としていたMSの構造そのものを、陸戦部隊が持つ経験則に基づいて大改修を施したのである。大戦後期に大量に生産された、いわゆる“無印のGM”が、大幅なコストダウンによる78ガンダムの構造を継承していたのに比べ、この機体は基礎設計そのものに、陸上での運用を想定した改装が施されているのである。



ARM UNIT

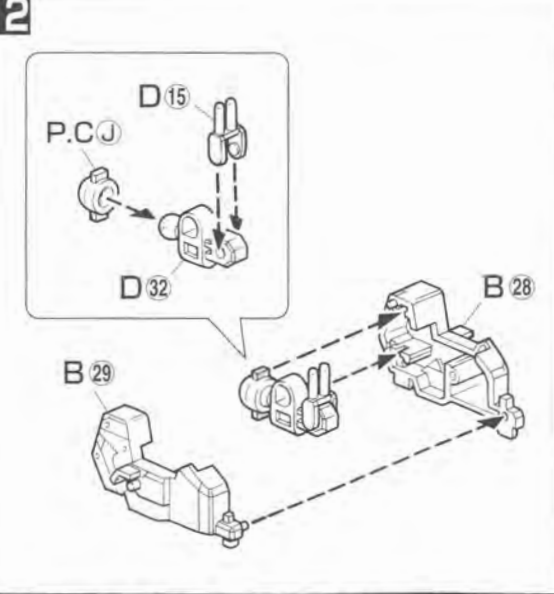
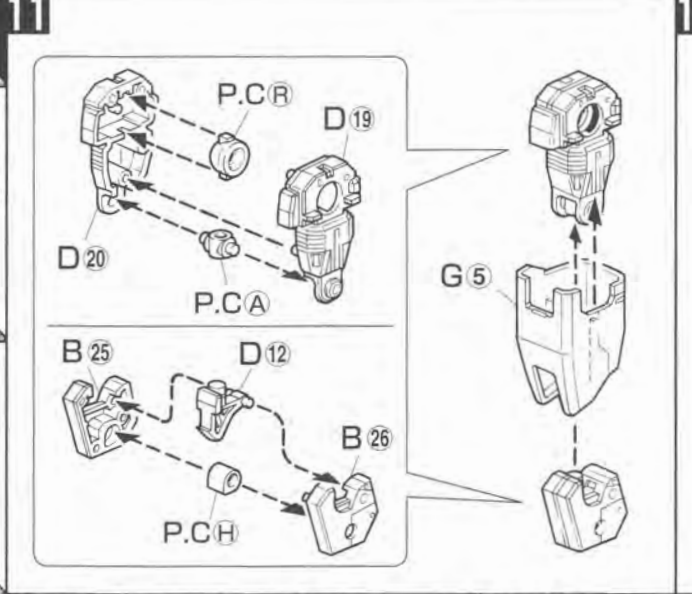
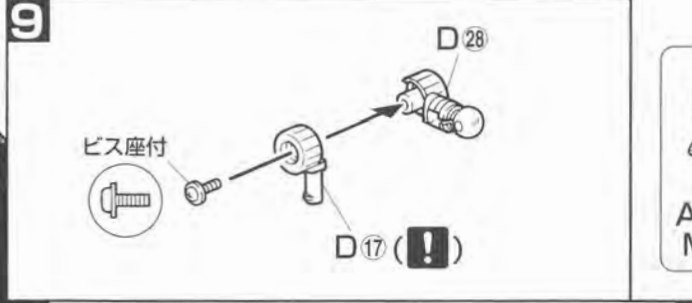
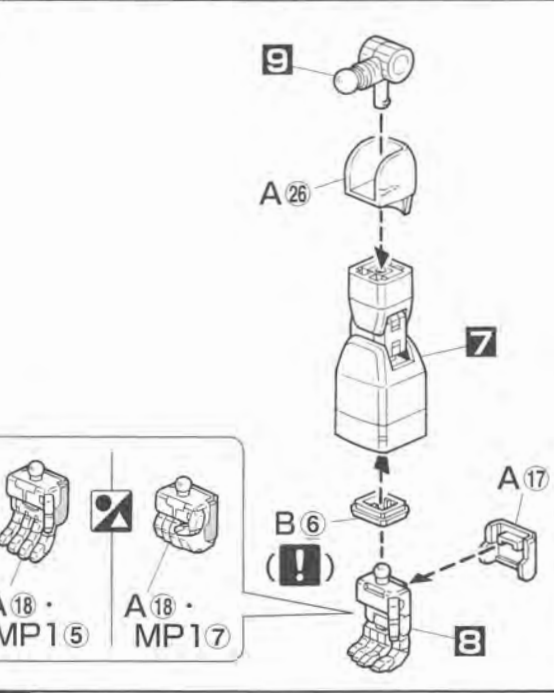
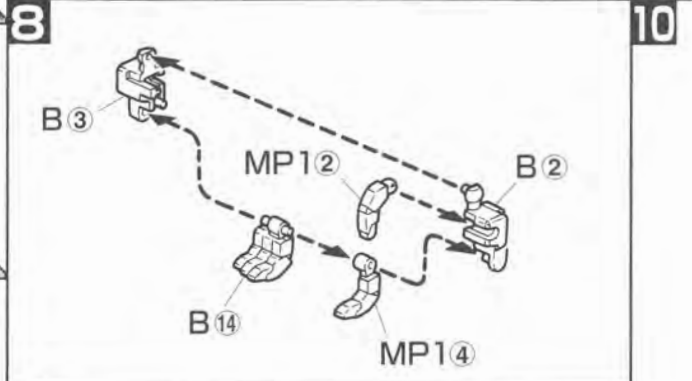
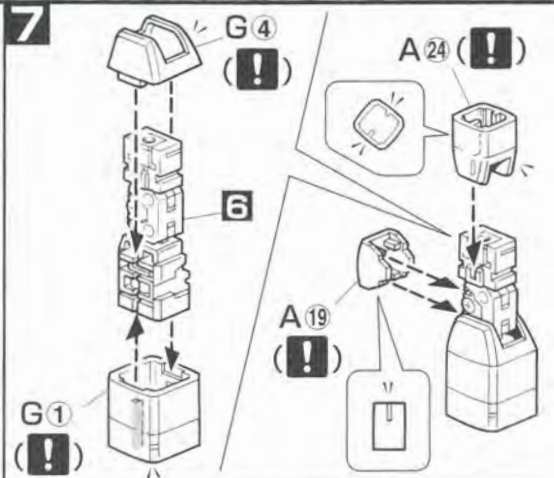
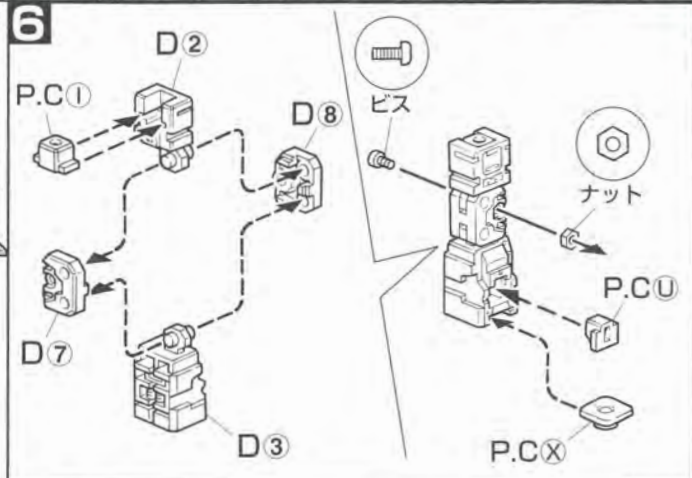
MSの腕部は、武装の選択肢を大きく拡大する汎用マニピュレーター兼広義のハードポイントでもある。RX-79(G)の腕部は、地球環境下における稼働を確実なものとするため、徹底的なシーリングが施されている。

RX-79(G)の開発に当たって軍当局が強く希望したのは、作動の確実性と整備の簡便性であった。元々連邦製のMSは、フィールドモーターなどを基本的なアクチュエーターとしていたため、公団系のバルスモーターに比較して制御系と動力系の取り回しなどの確実性が高く、各ユニットのブロック化もあって、それらは運用上のフェイルセーフとして機能していた。ただし、その分ユニットそのものは構造的にデリケートなさらいがあり、損壊した部位は、基本的にそのユニットごとと交換するのが前提とされてい



ただ。ただし、実際の戦線において、ましてや、実戦投入が始まったばかりの新兵器の整備部品が潤沢に用意できるわけもなく、予備パーツなどが不足するであろうことは、陸戦部隊にとっては予測可能なことであった。そこで、いわゆる先行試作型は、可能な限り各部のユニットをさらに細分化し、損耗の激しいことが予想される部位は、現地での修繕が可能ないように設計変更されている。この程度のことでは、砂塵や動植物の繁茂する熱帯、亜熱帯気候の戦線に投入される機械化部隊には常識であった。そして、それを実現したのが、この機体なのである。

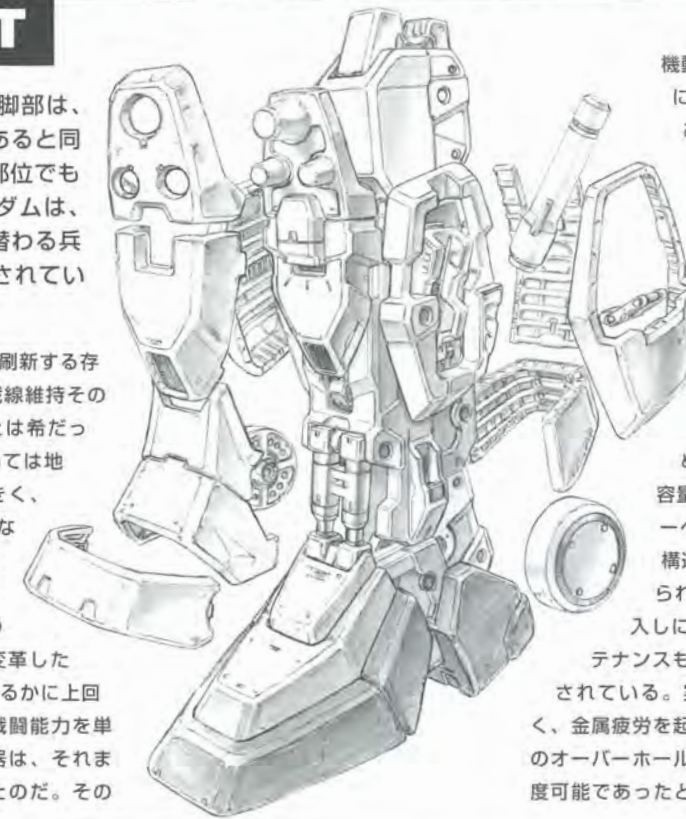
Mechanism illustration : BEE-CRAFT



LEG UNIT

地上においてMSの脚部は、特に重要なユニットであると同時に、最も酷使される部位でもある。特に陸戦型ガンダムは、既存の軍用車両などに替わる兵器としての運用も想定されていたのである。

MSは既存の兵器体系を刷新する存在ではあったが、兵站や戦線維持のものにまで適用されることは希だった。ことに、地上戦においては地勢や気候などの影響が大きく、既存の戦術に則らなければならぬ要素も依然として大きなものだったのである。ただし、戦闘兵器としてのMSが戦場のありようを変革したのも確かで、戦闘車両をはるかに上回る走破性を持ち、自らの戦闘能力を単独で移送できるという兵器は、それまでではありえないものだったのだ。その



機動力をもたらす脚部は、MSにとって最重要なユニットであり、特にRX-79(G)の脚部には、地上用に特化された特徴が集約されている。膝部装甲には格闘戦に対応したスパイクが追加され、原器となったRX-78ではコ・ジェネレーターやプロペラントタンク、バーニアユニットなどが収められていた下腿部には、大容量コンデンサーやビーム・サーベルラックなどが収められ、構造そのものが高密度にまとめられている。加えて、塵埃の混入しにくい構造が採用され、メンテナンスも少人数で可能なように配慮されている。実際、最も衝撃を受けやすく、金属疲労を起こしやすい足部接地面などのオーバーホールは、搭乗者単独でもある程度可能であったとされている。

WEAPONS

NF・GMG-Type.37/100mm
P.B.R-0079/A12 S-000011
NFHI・GMCa-type.09/180mm
X.B.Sa-G-03
RGM・S-Sh-WF/S-00109

RX-79(G)が装備可能な武装は多岐にわたる。それは、MSそのものが、運用上の利便性や戦闘能力の向上を模索する途上にあつたため、その実効性を検証するために試験的に投入された兵装もあつたようだ。



100mm MACHINE GUN

連邦軍のMSの標準的な装備。威力の割りに小型であるため扱いやすく、特に地上に配備された部隊に多く支給されている。



BEAM RIFLE

実体弾を凌駕する威力をもつが、実用化直後であるため実戦部隊への配備は遅れており、定数を満たせず貴重な装備となっている。



BEAM SABER

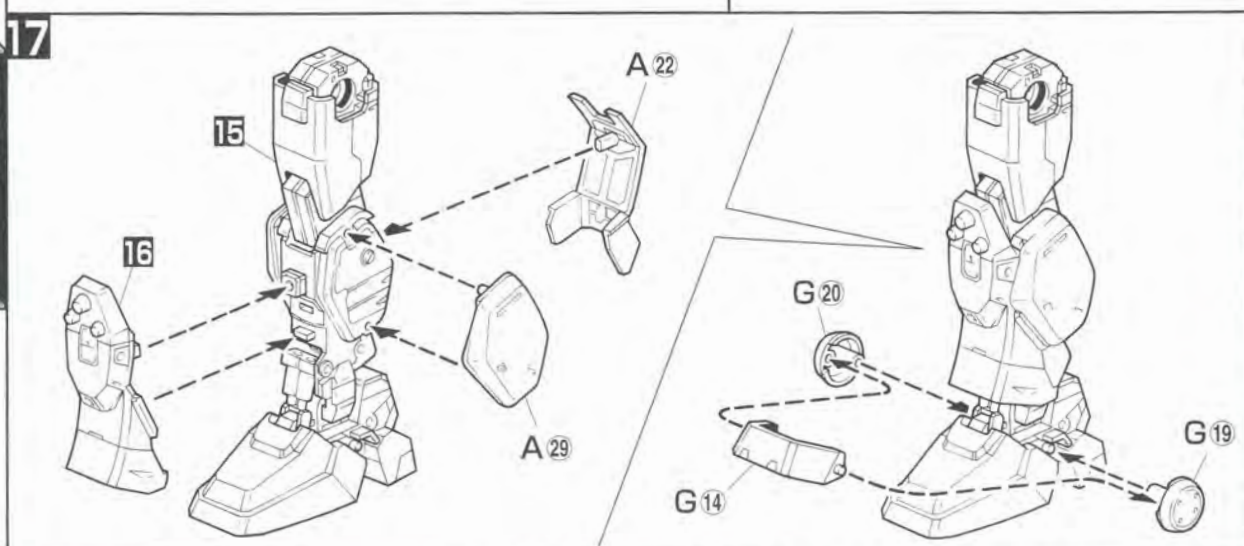
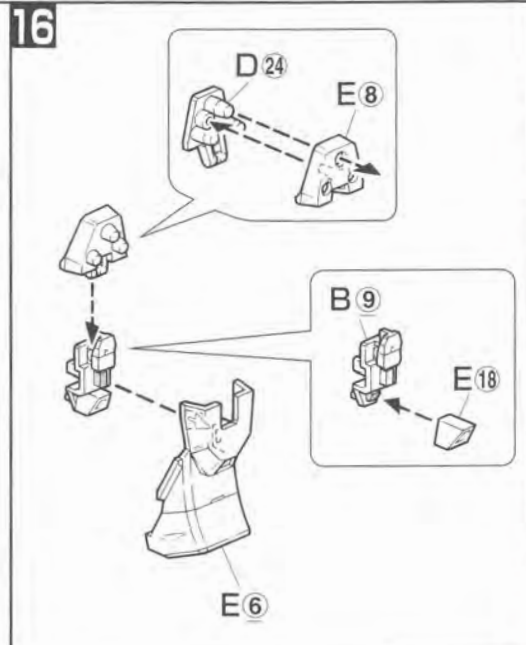
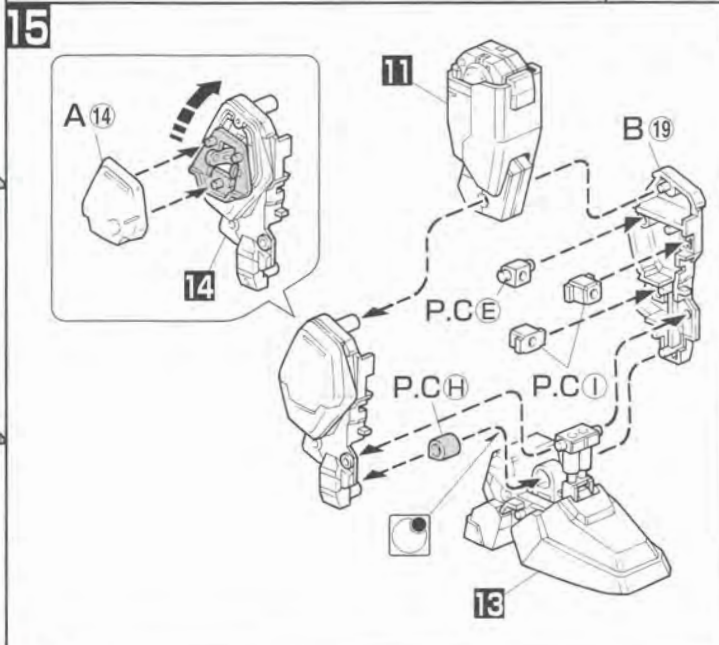
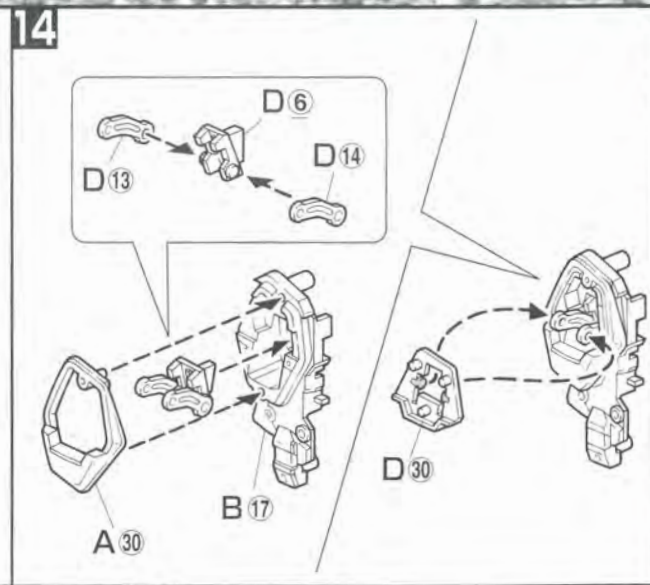
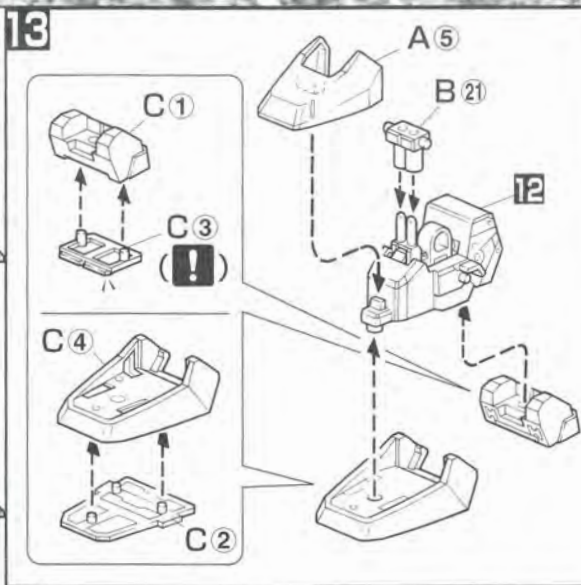
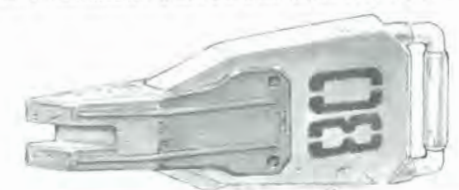
RX-78や通常型のGMとは異なり、脚部に装備されている。連邦製MSの一般的な兵装。

180mm CANNON

カートリッジ装填式の実体弾を使用する大型火器。基本的には対MS戦闘用の成形炸薬弾を使用するが、徹甲弾やナバーム弾なども射出可能。

SHIELD

腕部のラッチに装着される防御用装備だが、可動ジョイントでポジションを変えて近接戦闘用にも使用できる他、砲架としても使える。





SORTIE

シローが第08MS小隊に着任してから3度目の出撃命令が下った。ジンスクスを気に病む隊員たちをどうにかまとめあげ、任務は無事終了するかに思われたその時、公国軍の秘密兵器が姿を現した。その正体不明機はトランプルに見舞われたらしく、シローはやり過ごすことにするが、それが目前に迫ったことに恐怖した隊員が思わず攻撃してしまった！やむなく応戦する08小隊は、辛くもそのモビルアーマー(MA)を撃退することに成功するものの、その正体は依然として謎のままだった。果たして……!?



MARKING



▲機体各部をリアルに再現するナンバー表記、注意書き等のマーキングシールをセット。形式番号等のマーキングを要望の高いガンダムデカールで再現しました。

JUNGLE

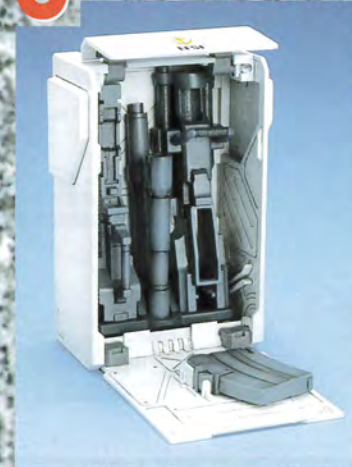
第08MS小隊は、東南アジア方面軍機械化混成大隊に所属している。この太平洋とインド洋に挟まれた地域は、地下資源が豊富であるばかりでなく、旧世紀来の商工業の拠点とも隣接していたため戦略上の要衝となっていた。公国軍の電撃的侵攻によって占拠、制圧された施設がさらなる支配地域の拡大に利用されていた連邦軍は、公国軍にこれ以上の開発拠点を与えることは防がねばならなかったのである。宇宙世紀0079年10月、シロー・アマダ少尉は、負傷した前隊長の後任として第08MS小隊に配属された。ここは地球でも屈指の激戦区であり、公国軍の秘密工場の存在も懸念され、戦況は予断を許さない。そして……



DESERT

公国軍が開発した新型MAの情報を入手した08小隊は、自撃者の証言を頼りに砂漠を進む。その先の渓谷に公国軍の秘密兵器の射撃場があることを突き止めたシローたちは、訓練を兼ねてその場に留まり、敵の出現に備えるが、待つだけの時間が過ぎて行った。そして数日後、MAアブサラスが姿を現した。アブサラスは、射撃場に仕掛けられた罠を発見し、その動きを止める。その機を逃さず、08小隊は攻撃を仕掛ける。ビーム・ライフルのまばゆい光芒の中、もうもうたる砂塵からその威容をのぞかせる巨大MAアブサラス。そのビーム砲は渓谷をなぎ払い、シローたちを窮地に追い詰める!!

CONTAINER WEAPONS



PAINTING

※よりリアルに仕上げたい場合は、下の基本色をご確認ください。
※塗料には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
●ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

- 腕・脚などの塗装色。
ホワイト(100%) + パール少量 + ブラック少量
- 足などの塗装色。
モンザレッド(100%)
- アンテナなどの塗装色。
イエロー(90%) + オレンジ(10%)
- 胸部などの塗装色。
ブルー(60%) + インディブルー(40%) + レッド少量
- 関節部、内部フレームなどの塗装色。
ニュートラルグレー(60%) + ミッドナイトブルー(40%) + パール少量
- 腹部、バックパック・クレーンなどの塗装色。
ミッドナイトブルー(60%) + ブルー(40%) + ミディアムブルー少量
- 武器などの塗装色。
ミディアムブルー(60%) + ニュートラルグレー(30%) + ミッドナイトブルー(10%)
- アイカメラなどの塗装色。
シルバーの上に蛍光グリーン(100%)



REAR VIEW



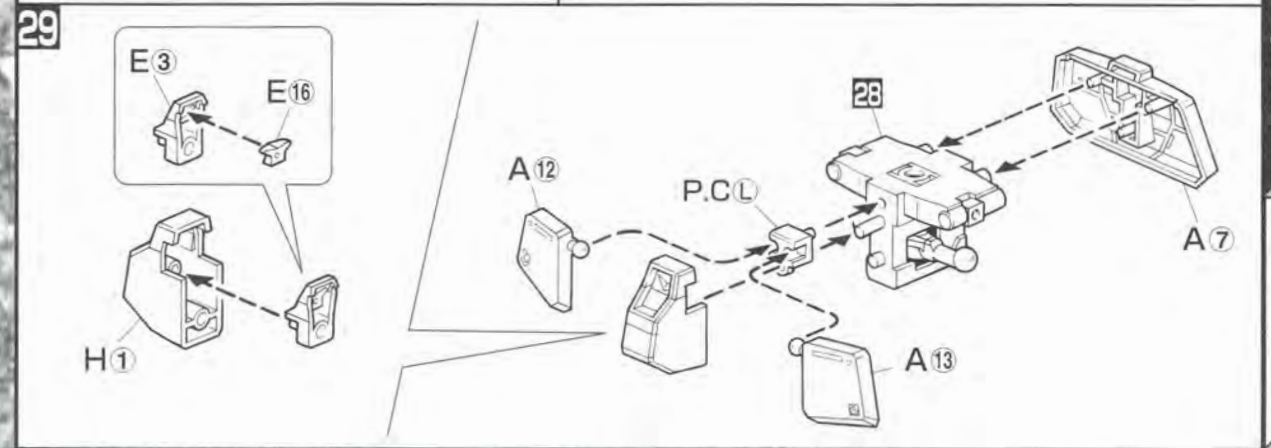
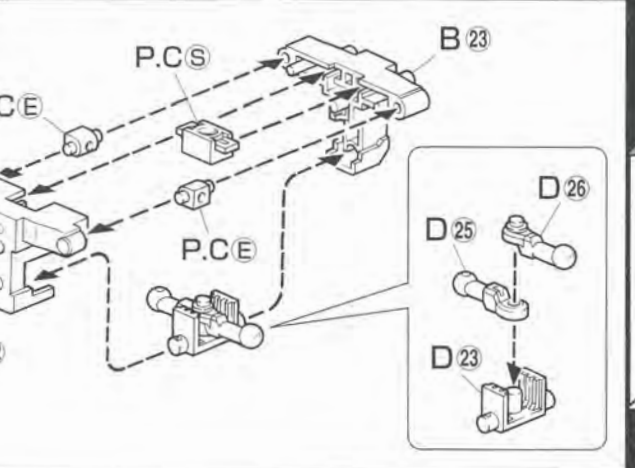
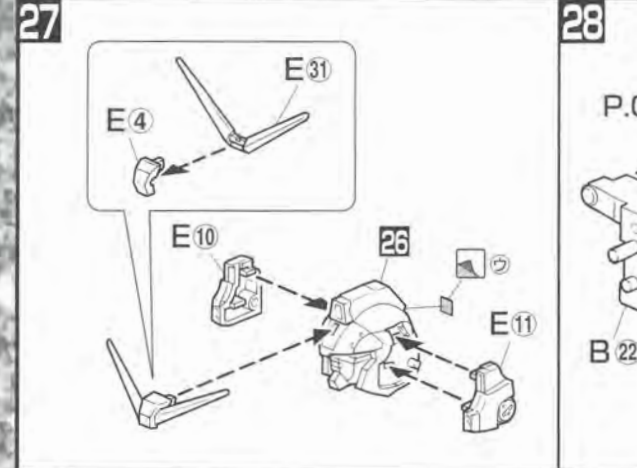
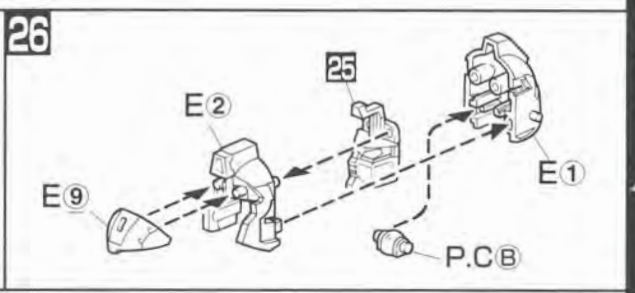
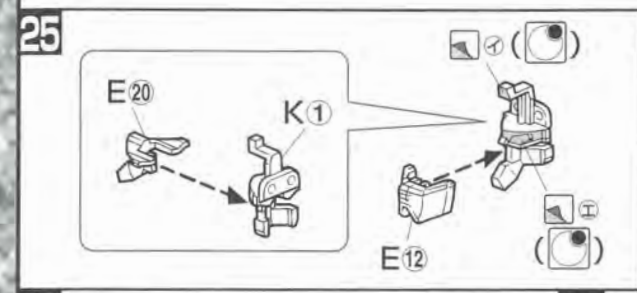
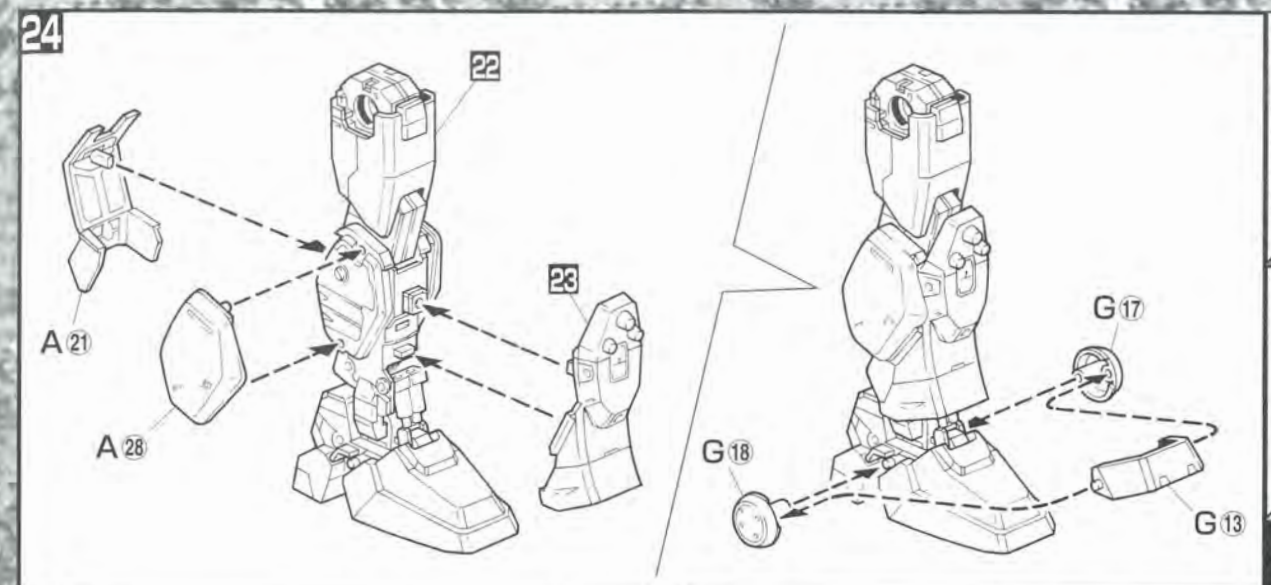
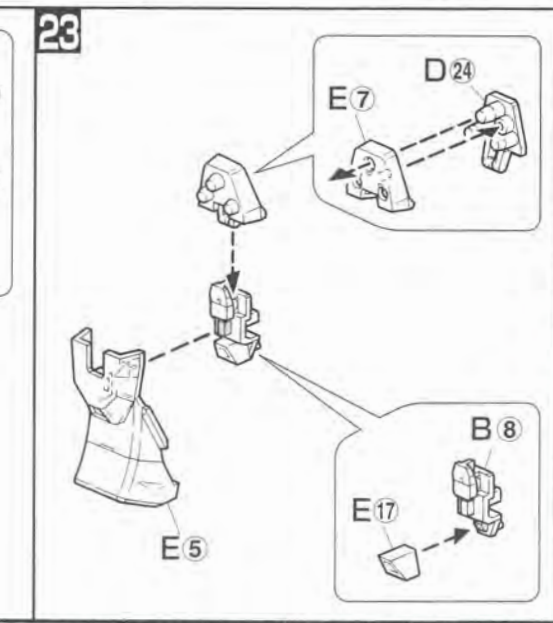
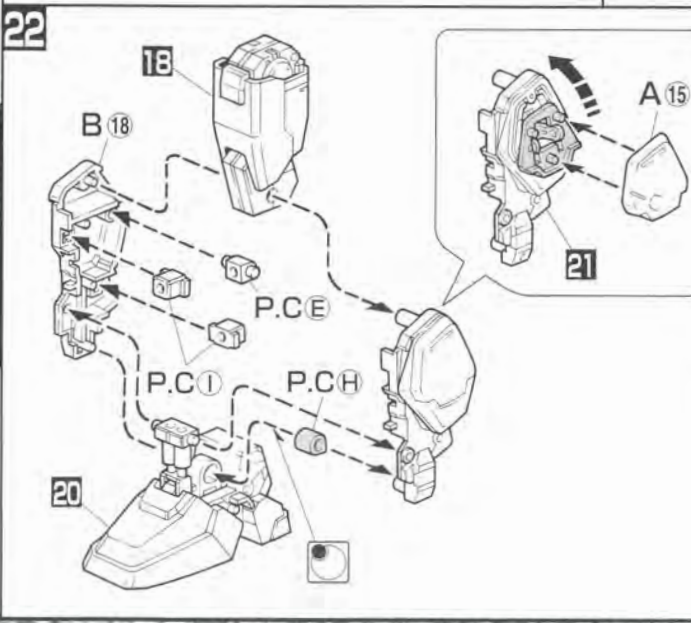
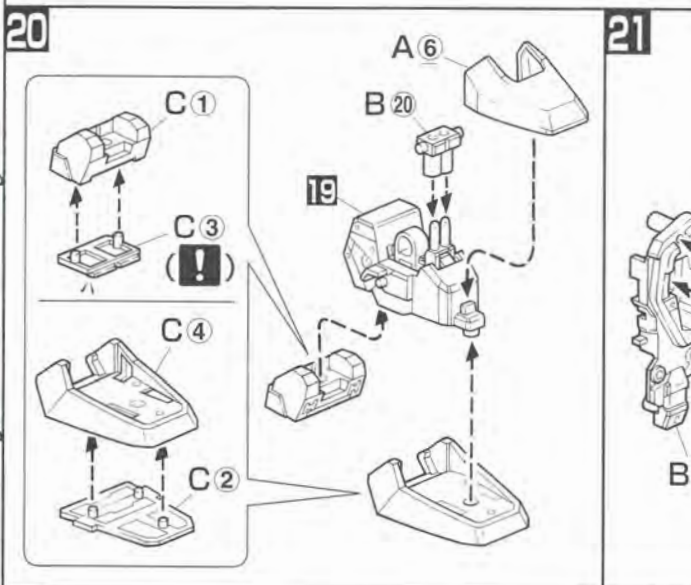
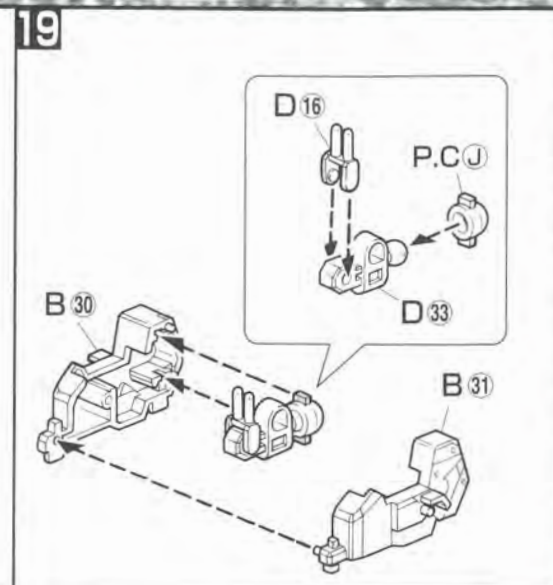
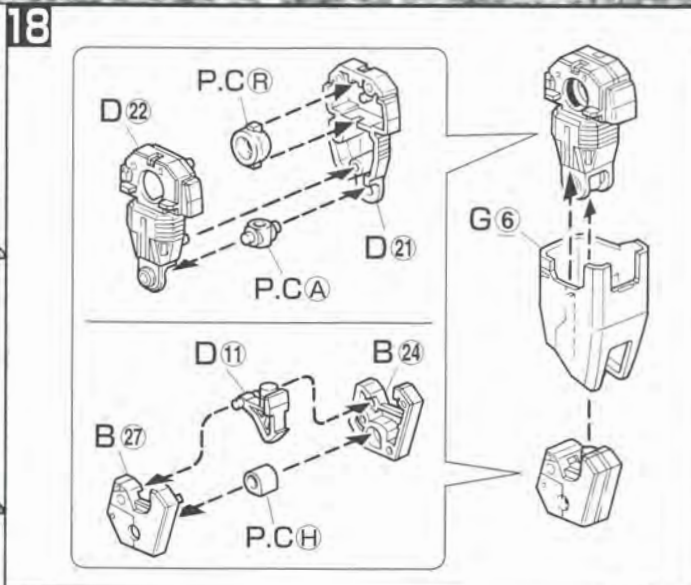
FRONT VIEW

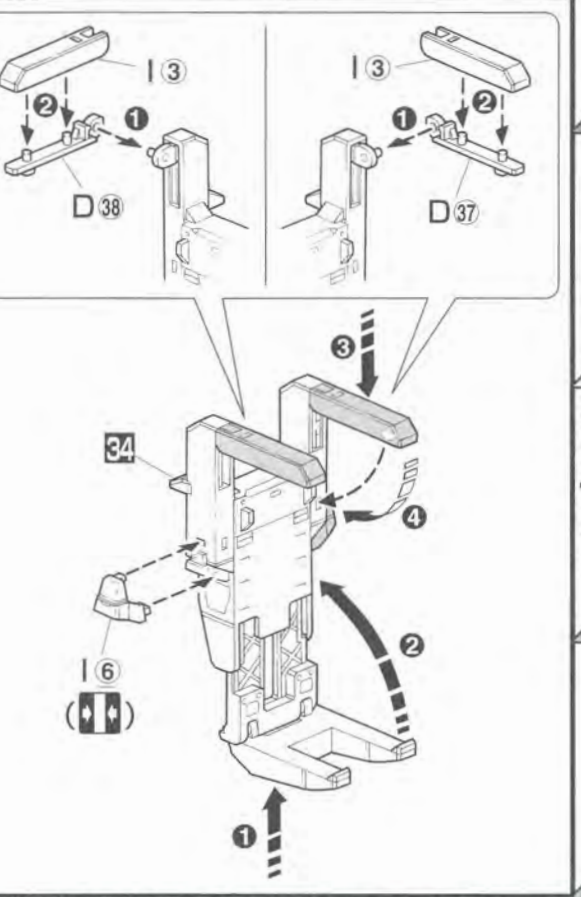
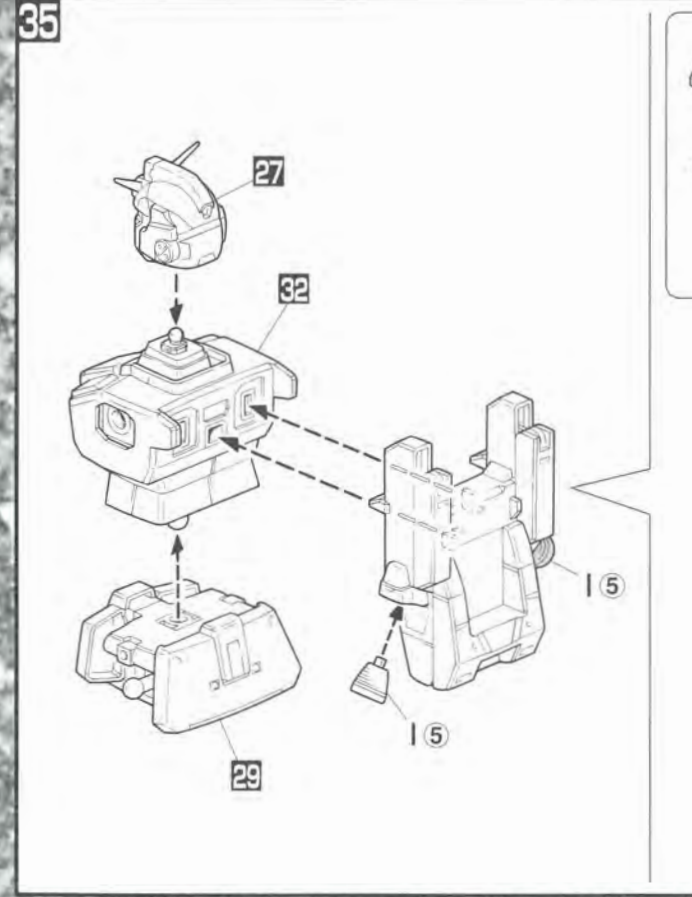
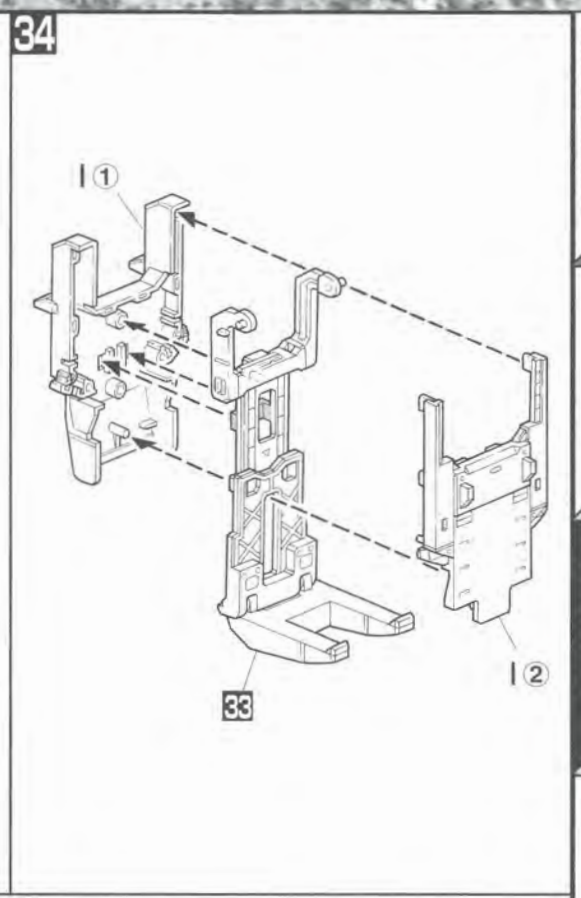
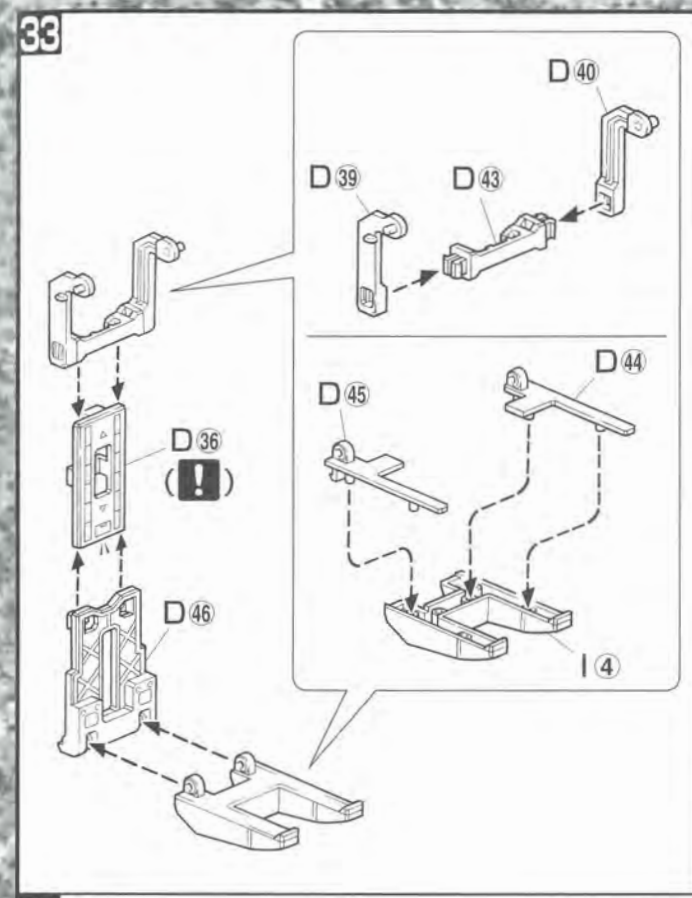
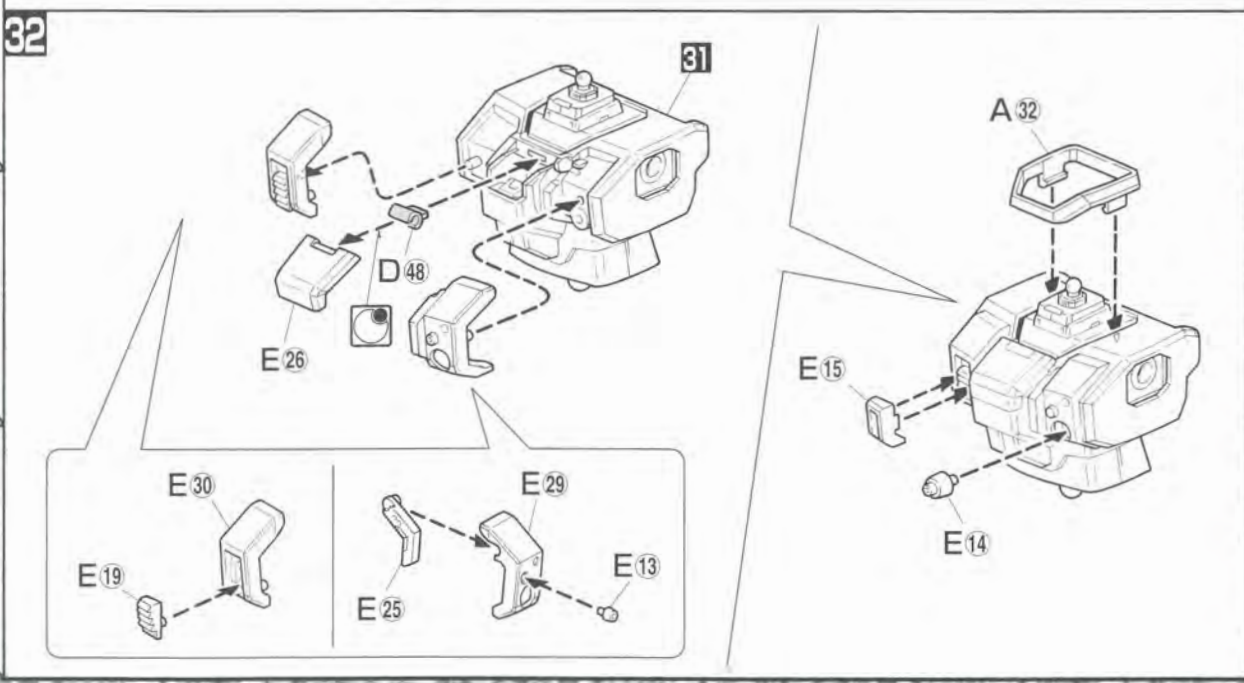
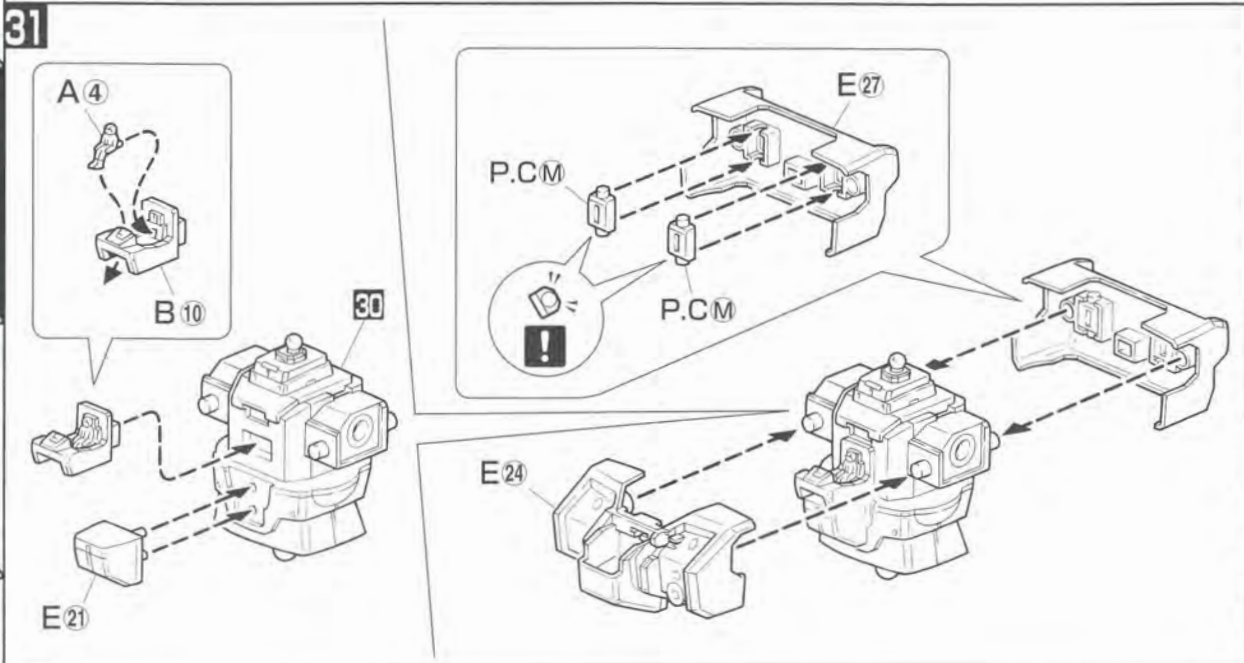
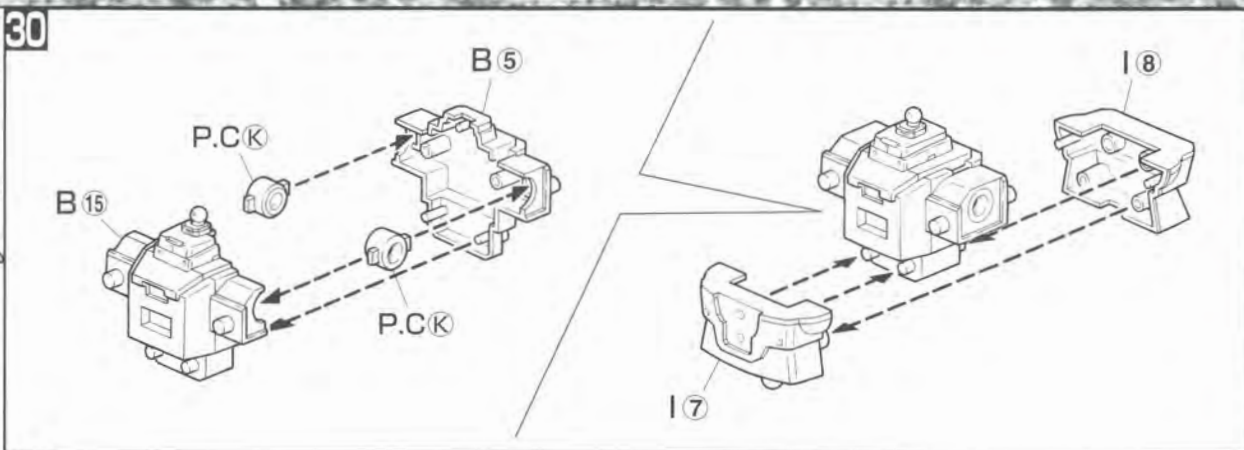


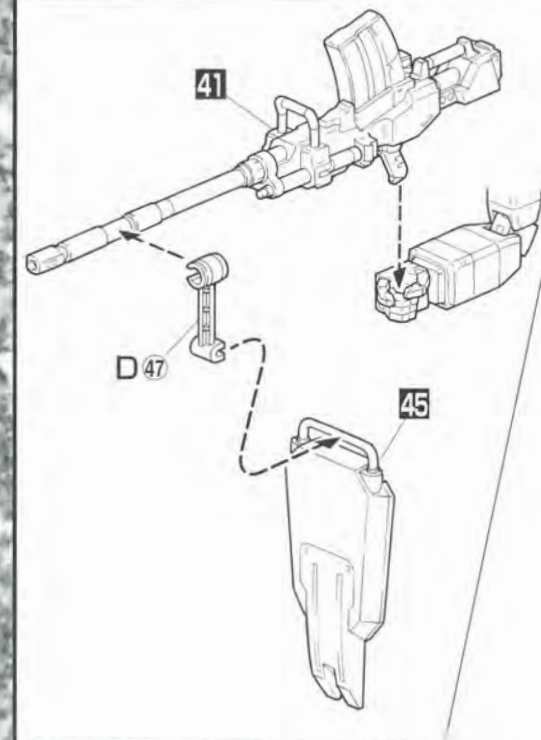
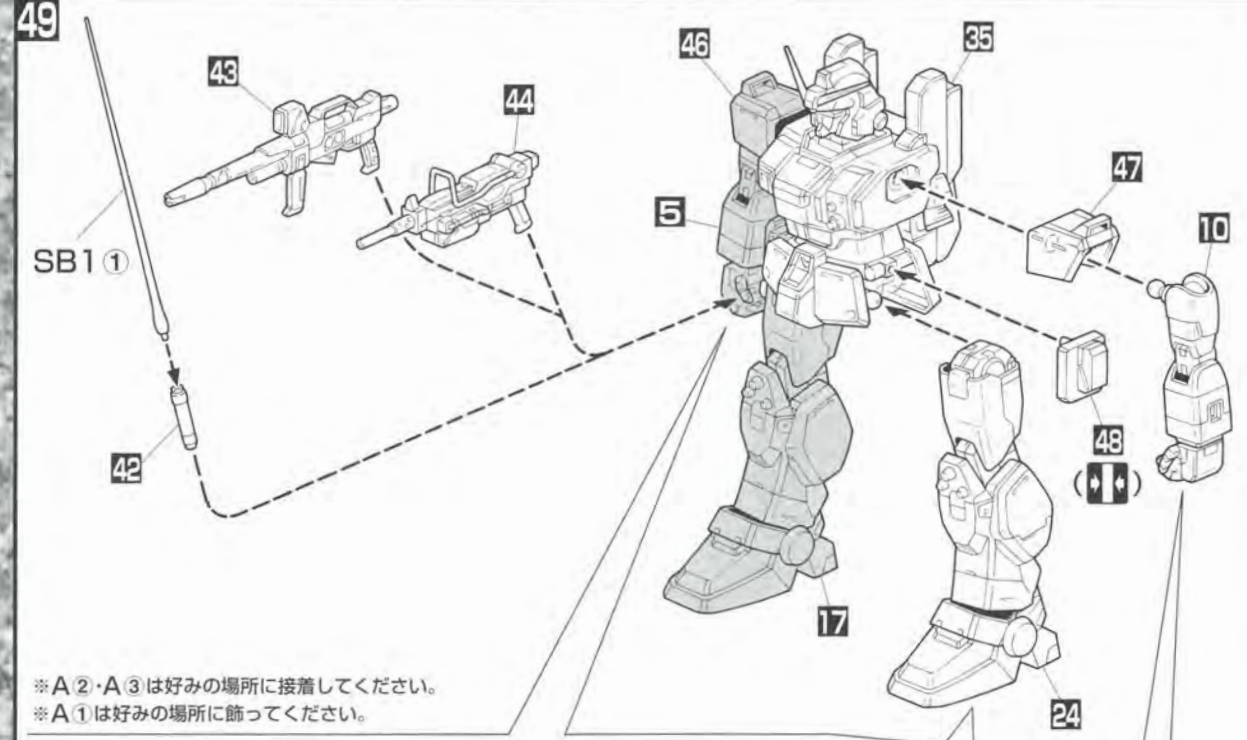
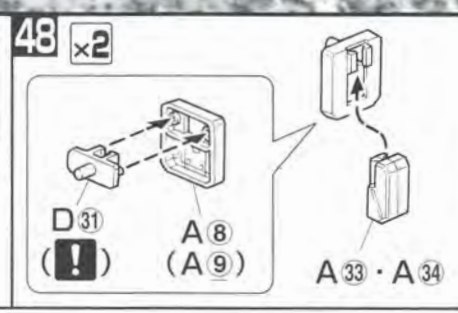
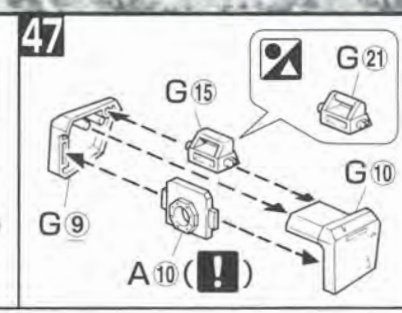
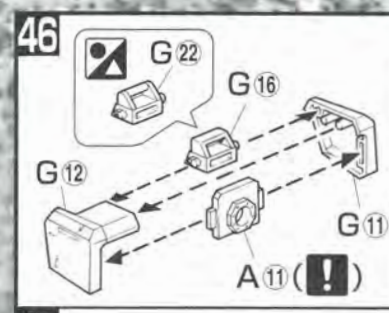
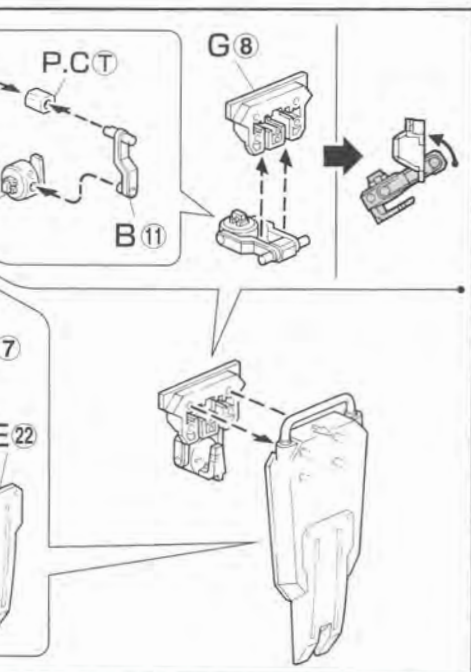
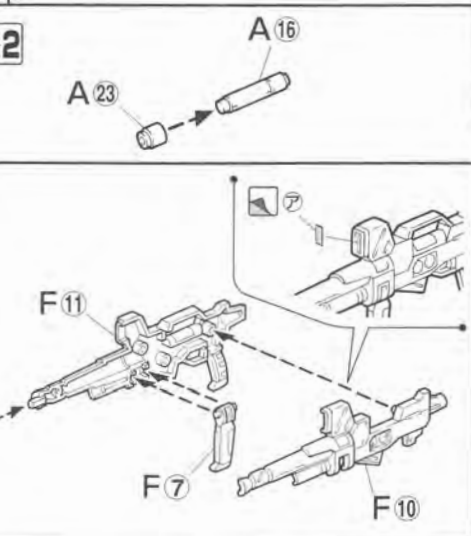
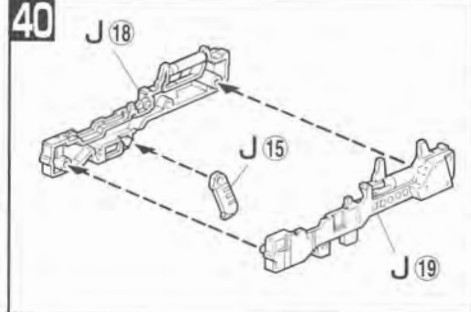
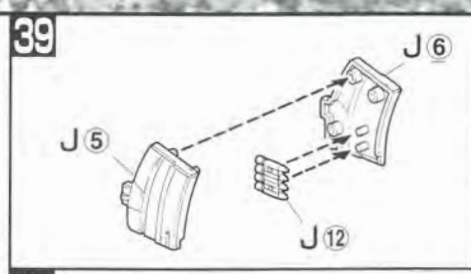
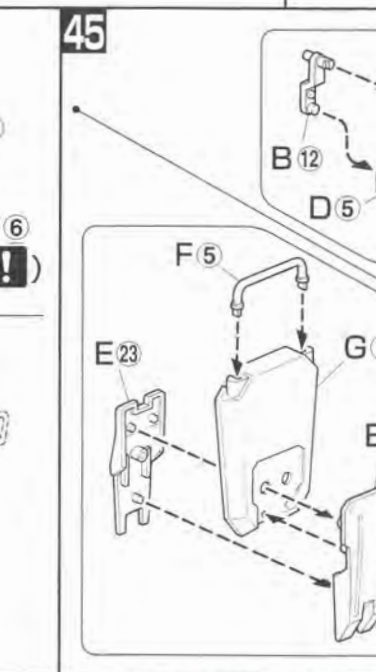
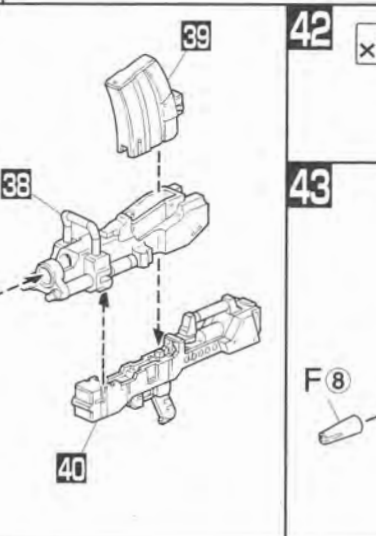
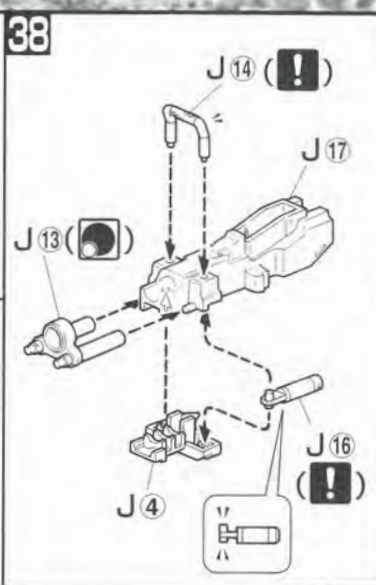
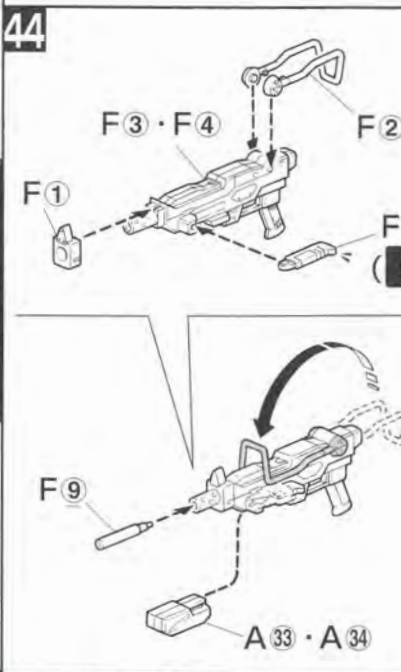
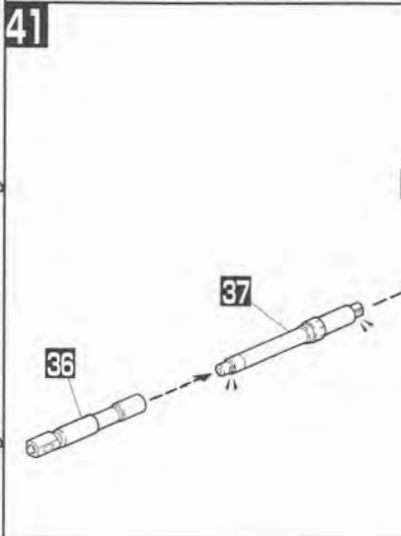
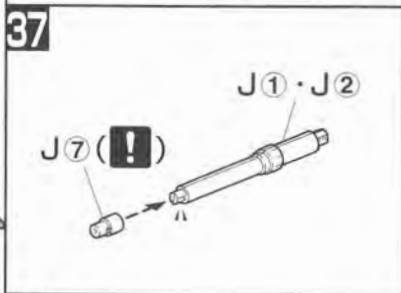
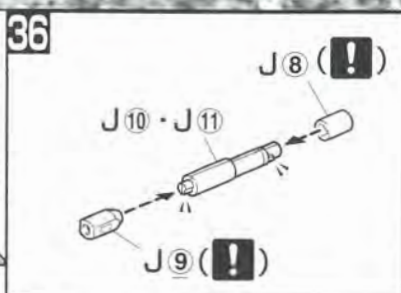
▲背部バックパックは、クレーンの可動によりコンテナの着脱が可能。

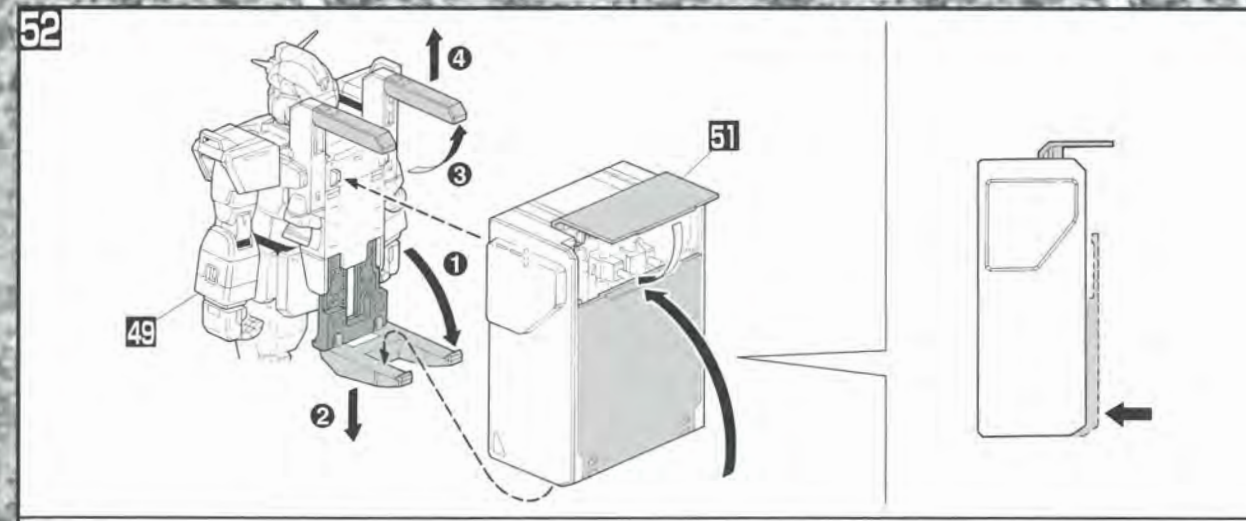
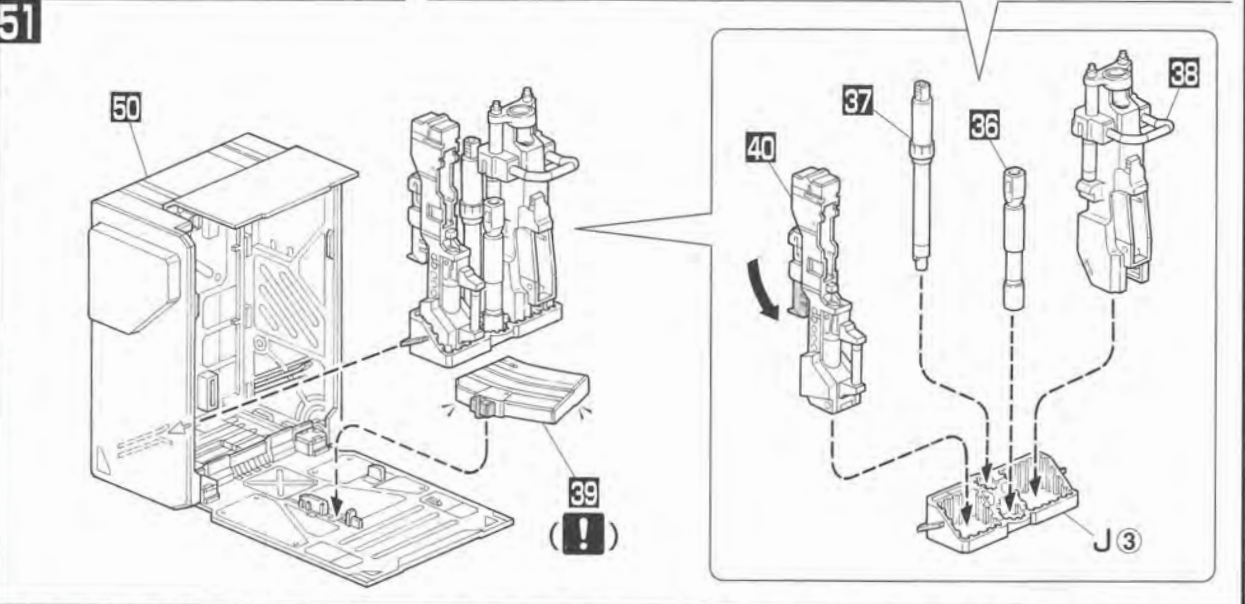
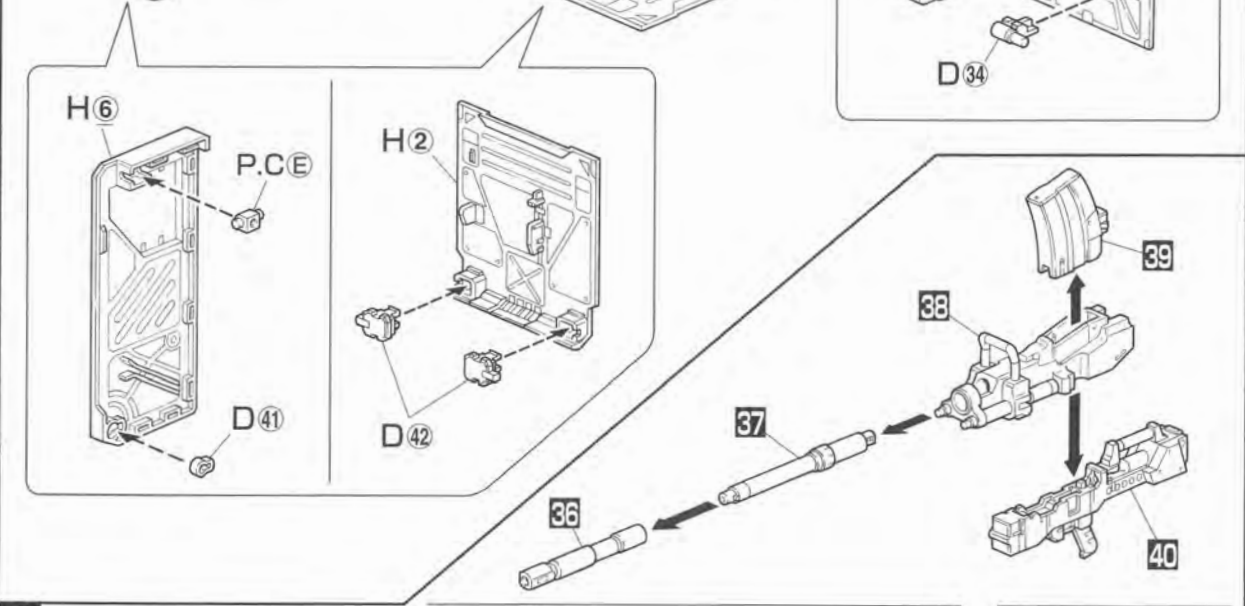
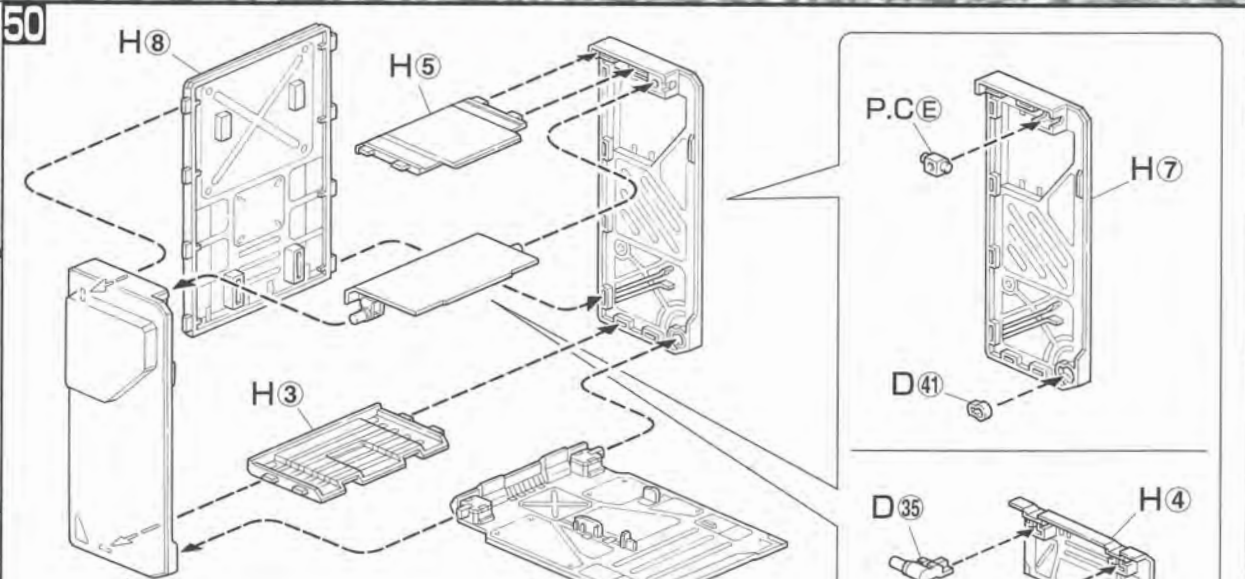


▲腕部、脚部の装甲は、脱着可能。内部フレーム、メカニクを精密に表現。脚部側面には、開閉式のサーベルラックを再現。



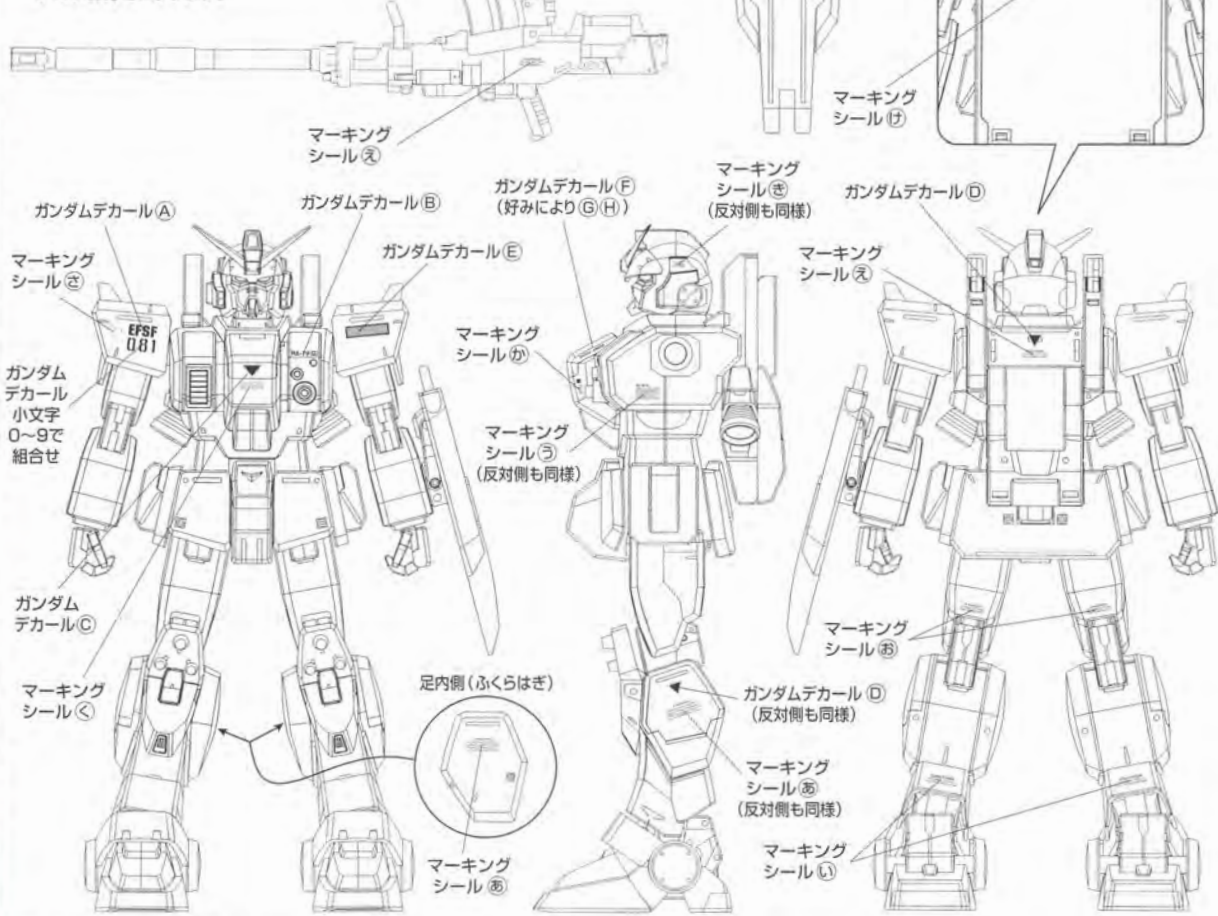






Seal (シール) 下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはり位置を確認してください。

ガンダムデカールのはりかた。
 1. 転写するマークをだまかに切ります。
 2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
 3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすりつけます。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。